



平成29年6月16日
第3号
南相馬市立石神中学校

「アクティブラーニング」とは

最近、教育界でよく耳にするキーワード「アクティブラーニング」。学習・指導方法の1つなのですが、一般的に次のように定義されています。

教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、生徒たちが主体的に参加、仲間と一緒に考えながら課題を解決する力を養うのが目的。こうした力を養う授業手法として、議論やグループワークなどが挙げられることが多い。(2015 朝日新聞)

◎いま中学校や高校でアクティブラーニングが注目される理由

- ・少子高齢化
 - ・グローバル化
 - ・高度情報化
- などがキーワードになります。

情報化の進展で企業はグローバル競争にさらされるようになりました。しかし、日本では既に少子高齢化がかなり進んで、生産年齢人口は減り始めています。周辺のアジア諸国は経済成長を遂げ、日本のグローバル競争における位置づけは大きく変化しました。これから日本に期待されることは、安いコストで大量に生産することではなく、新しい価値を生み出すことに変化しているのです。眞面目で勤勉、言われたことを間違いなくきちんとこなす。そんな日本の成功モデルは過去のものになろうとしているのです。

アクティブ・ラーニングで身につける力とは、知識の活用力である「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」などです。協働して問題を解決したり、新しいことを創造する力を育てるのがアクティブ・ラーニングというわけです。

Topic

勉強しても台無しに!? 「スマホと学力低下の因果関係」③

大嶋 和美

図1-3 平日にスマホを使う時間ごとに見た全教科の平均点

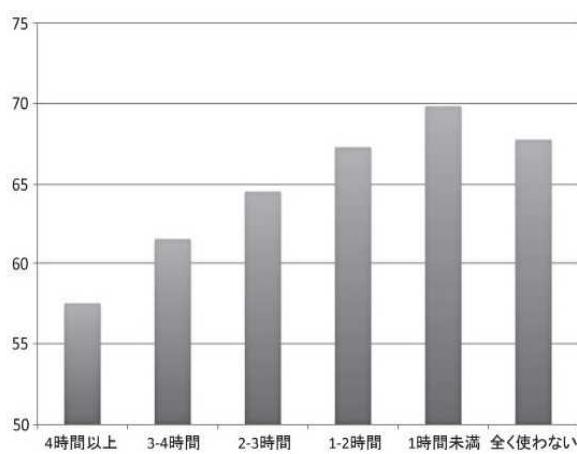
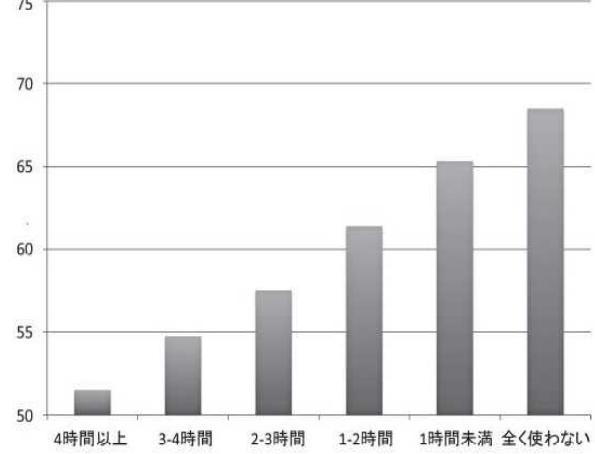


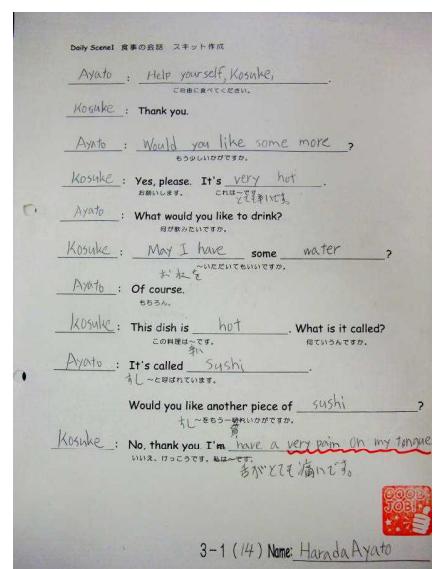
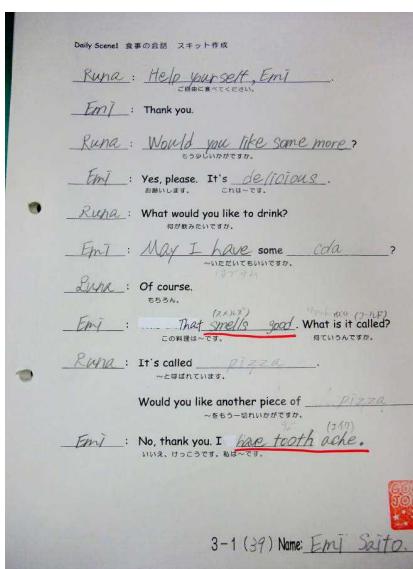
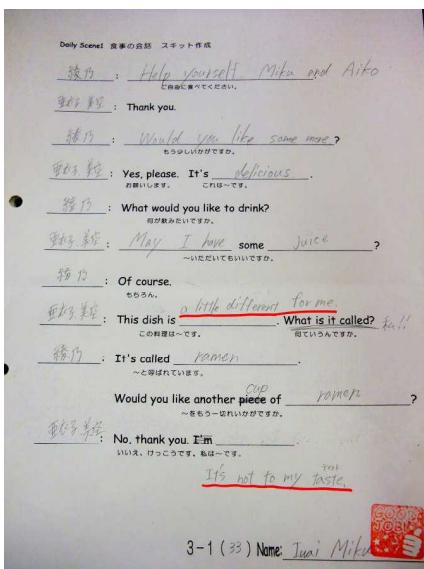
図1-4 LINE等の無料通信アプリを使う時間ごとに見た全教科の平均点



スマホ使用時間が1時間未満と応えた子どもたちの学業成績が最も高かったという結果も出ているようですが、単に1時間未満を使えば成績が上がるということでは決してありません。スマホを持っていても、自分で（もしくは親が）使い方をきちんとコントロールできている子どもたちなのではと考えられます。スマホの使用ルールを含め、親子ぐるみで生活習慣を見直すことがとても重要だと思いますし、この調査結果をきっかけにご自身やお子さんの生活習慣を見直していただければ幸いです。



衝突の危険性を考えて、見通しの悪い場所に鏡を設置してくれた生徒がいました。安全性が高まり非常に助かりますね。すばらしい取り組みだと思います。



3学年英語「食事の会話」

教科書に出てくる表現だけでなく、ペアで工夫して会話文を作成できました。

原稿をもとに
会話練習



そして発表

